

県立大野病院の現施設の状況等について

令和4年11月4日
福島県病院局

1 調査結果について

	調査内容	調査結果
令和 2年度	【被災建物調査、不同沈下調査】 建物外観目視等の点検調査、建物の基礎・杭や地盤沈下の調査	外壁の一部で補修が必要であるが、現時点では、 <u>建物の構造上の大きな問題は確認されていない。</u>
令和 3年度	【外壁全面打診調査、簡易躯体劣化調査】 建物外部、屋上の外壁全面打診調査及び、建物躯体（柱、梁等）の劣化状況調査	

2 現施設の利用について

(1) 施設の改修について

現施設を利用する場合、スケルトン解体工事※を行った後、内装改修・建具改修・外壁改修工事を行う。また、10年以上使用されていない電気設備・機械設備の更新が必要となる。

※ スケルトン解体工事：建物の内装材（内壁や天井等）、設備、配管等を撤去し、建物を躯体だけの状態にする工事

(2) 課題

- 建設から20年が経過した施設であり、中核的病院に求められる機能を効果的に発揮することが可能であるか。
- 施設の修繕・改修に加え、医療器機や備品、情報システム等の整備が必要となるため、現施設を利用する場合でも多額の費用がかかる。

(3) 今後の方向性

現施設の利用については、中核的病院の規模・機能、修繕と新築の費用対効果、地元自治体の意見等を踏まえて検討する。